

＜第7期更別村地域福祉活動計画への意見募集結果＞

令和6年2月7日から2月20日にかけて、計画原案の本会ホームページへの掲載と老人保健福祉センターへの設置によりパブリックコメントを募集しました。

同じく計画原案を行政区福祉委員の方々と社会福祉協議会評議員の方々へ送付し、ご意見を伺いました。

結果、感想1件、計画に対する意見12件（計13件）が寄せられました。

意見の概要及び意見に対する本会の考え方・回答を以下のとおり公表いたします。

※ 意見の概要は、原則原文どおりです。

〔 〕内は、勝手ながら文書がわかり易くなるよう、付け加えさせていただきました。

意見の概要	意見に対する社協の考え方・回答
<p><感想></p> <p>知らなかった部分も多くこんなに沢山の活動をしているんだと驚きました。</p> <p>計画案についての意見はありませんが、行政区長として今後区員への周知、協力を努力していこうと思います。</p>	<p>嬉しいお言葉をいただきありがとうございます。区長の方々、また社協から各区に1名配置をお願いしている福祉委員の方々へ、お願いごとばかりではなく必要な情報、参考となる情報をしっかりお伝えしていきたいと思っています。</p>
<p><意見1>P7</p> <p>2)〔SNSも活用した積極的な情報発信の①から⑦〕の他に、行政DX化に向けた相談を受ける。</p> <p>更に進めたチャット等が求められるが、検討されていないのか。今デジ田構想が進められている時にこそ計画されるのではないのか。</p>	<p>更別村も出資する Social Knowledge Bank 合同会社が運営主体となり進めているデジタルベーシックインフラサービスについては、社協も可能な連携を取っています。</p> <p>国内の一部自治体のホームページ上では、サービス提供や質問回答にチャットボットが導入され始めていますが、人工知能搭載型かつカスタマイズ性のあるチャットボットは初期費用数百万円、月額100万円程度まで高額になるとの情報があります。</p> <p>更別村のホームページに同機能が導入されていない現状においては、本計画にチャット等の対応について明記することはできないものと考えています。</p>
<p><意見2>P9</p> <p>2)〔居場所づくりと交流拡大は〕児童、生徒の居場所として位置付けされていないのか。3)〔P11 みんなが学ぶ福祉〕があるなら可能と考えられる。</p>	<p>位置付けをしていますが、更にわかり易くなるよう、2)の説明に「全ての世代の」という文言を追加します。</p>

<p><意見3>P12</p> <p>4行〔目に記載の〕…デジタル化が進む中にあるの…という表現は、別の組織との関わり方となっている。</p> <p>行政と社協は一体として考えるので、「進む中」→「進められるので」としてはどうか。</p>	<p>社協は行政の特に福祉部門と連携・連動し事業を進めていくことが原則ではありますが、行政と一体とまで言い切れるかと言うと、むしろ行政施策からこぼれ落ちる方のための事業を実施する法人であるとの自覚もしております。</p> <p>踏まえましても、「進む中」という文言を「進められるので」と修正するまでの特別性はないと考えます。ご理解の程よろしくお願いいたします。</p>
<p><意見4>P13</p> <p>④除雪サービス事業の12月～3月における20cm以上積雪時は高齢者では積もりすぎです。約10cm以上でないとこまると思います。(玄関の入口がこまると思います)</p> <p>上更別公住は10cm以上です。(高齢者所)</p>	<p>除雪サービス事業は、更別村高齢者生活支援事業の一つで、村の助成金交付要綱により「おおむね20cm以上」との基準に基づいて実施する無料のサービスとなっています。</p> <p>本計画原案の「20cm以上」に「おおむね」が抜けていたため加筆いたしますが、そのようなことで何卒ご理解願います。</p> <p>なお、有料とはなりますが、20cm未満の積雪時の除雪の実施または除雪業者のご紹介が可能ですので、ご希望がございましたらぜひご連絡ください。</p>
<p><意見5>P13</p> <p>⑤の除雪支援事業についても同意見</p>	<p>除雪支援事業は除雪サービス事業を補完する本会の自主事業で、その内容は除雪サービス事業に準じています。</p> <p>同じく本計画原案の「20cm以上」に「おおむね」が抜けていたため加筆いたしますが、そのようなことでご理解願います。</p>
<p><意見6>P17</p> <p>6)本村の〔ひきこもり者の〕実数は？</p> <p>全般に亘り実数がないので計画で具体的な数値目標がない。(立てられない)</p>	<p>本村における実数は現時点で発表されていませんが、少しでも具体的なイメージにつながるよう、「更別村においてひきこもりの状況にある方の数は明確にされていませんが、15歳～64歳の人口から推測すると、35名程がそのような状況にあるとも考えられます。」との文言を加筆し修正します。</p>

<p><意見7>P22</p> <p>社会福祉に関わる活動について、平時と災害発生時とは対応が全く異なると思われる。災害発生時には行政（村や道）が前面に出てきて仕切るだろうと思われるので、そちらとの連携についても、前もって計画に盛り込んでおき、村民への周知事項にしておいていただけたらと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、本会が大災害時に設置する災害ボランティアセンターは、村と協議の上で進められるものであり、またその運営には北海道社会福祉協議会を中心とする多くの団体との連携協力が必要になります。</p> <p>ご意見を踏まえて、目標6の説明文言を加筆修正します。</p>
<p><意見8>P22</p> <p>災害後、国や自治体などの支援体制が十分に整うまで、数日間かかってしまう支援を待たずに、被災した方々が、その場で温かい食事を届けられるよう防災用品と備蓄食（非常食含む）を積載したレスキューキッチンカーの配備が必要かと思えます。</p>	<p>レスキューキッチンカーは、一般社団法人日本食育 HED カレッジの登録商標であり、炊き出し用の鍋や食材（500人以上）、テントや簡易トイレ（2,000回分）、担架や車椅子になる立看板などを常備するものと認識しています。その値段は750万程との情報もあり、本会による単独整備は非常に困難です。</p> <p>一方で被災時の温かい食事は、心身の健康のため何よりも大切だと考えています。住民一人ひとりが3日分の飲み物・食べ物を保管すること。それをローリングストックにより更新していくこと。そしてご意見のとおり食事を温められる用意も含めたその重要性を発信し、本会としても災害時それに係る支援を想定した物品整備を進めてまいります。</p>
<p><意見9>P22</p> <p>災害時の美しい食べ物は、身体の栄養補給だけではなく「心の栄養補給」にもつながる。被災者の声をもとに美しい防災食（非常食）の開発・生産についても関係機関と連携しながら取り組めたら良いかと思えます。</p>	<p>意見8の回答に記載のとおり、被災時の食事の重要性を認識しております。</p> <p>一方で本会が主体的に防災食（非常食）の開発・生産に主体的に取り組む立場にあるかという現状においては難しく、まずは主催する講演会や広報誌発行などの機会を通じて住民へその必要性の発信に取り組んでいきたいと思えます。</p>

<p><意見 1 0 >P22</p> <p>災害支援が到達するまでの数日間、地域の安全や防災の機能（BCP 策定）を有した施設、設備（防災基地施設含む）の整備、充実が重要になってくるかと思えます。</p>	<p>ご意見は、更別村地域防災計画に基づき進められるものと認識しております。</p> <p>本会は、使用許可をいただき事務所を構えている立場であり、オフィス用品の転倒リスク軽減等、早急にできる対応とともに法人 BCP の策定に取り組んでまいります。</p>
<p><意見 1 1 >P22</p> <p>④〔法人 BCP の策定～訓練は〕 R7 から唯一掲げた目標。〔村の〕福祉計画の P3 にある表現は後手で困ったものだが、村と充分協議を。全般数値目標される事が良いので村との充分な協議を。</p>	<p>法人 BCP については、令和 6 年度に北海道社会福祉協議会が市町村社協法人 BCP 策定支援事業を実施するとの情報があり、踏まえて村とも協議し進めてまいります。</p>
<p><意見 1 2 >その他</p> <p>〔社協の地域福祉〕活動計画が先行して策定した経過があるので、〔村の地域〕福祉計画と年次が異なるのは理解していますが、年次計画を見る限り R7 から一部（講演会関係）する・しないはあるが、福祉計画にそろえたら良いと思えます。1 年おいても問題はない。</p> <p>理由は、福祉計画に基づき活動計画がなされるので、福祉計画にそって作りをそろえると、関連性・実数等が統一され見やすくなると思えます。</p> <p>特に、行政の DX 化が図られる事による大きな節目となるであろう次期福祉が大きく変わる要素を考えると、なおさら活動計画も大きく変化点なる可能性が考えられる。</p>	<p>行政計画との整合性についてのご意見、ありがとうございます。</p> <p>村担当課からは、本会の地域福祉活動計画も含め、行政の他関係計画を踏まえて更別村地域福祉計画を策定しているため年度のずれは問題ないとの言葉を伺っているところでです。</p> <p>またご意見のとおり、行政の DX 化は大きな変化を確実にもたらすことが想定されますが、次年度・次々年度以降も同様に続いていくものでもあると思われまます。</p> <p>本計画も必要に応じて計画途中の修正を行っていくものです。当然令和 6 年 3 月より開始予定のデジタルベーシックインフラサービス（特にひやくワクサービス）の経過、次期更別村地域福祉計画の内容を注視することを前提に本計画の策定を今年度中に進めたく、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。</p>

以 上